

26年度 授業改善推進プラン【総合的な学習の時間】

谷戸第二小学校

1 日常の学習における課題分析

全体計画・年間指導計画が、現行学習指導要領が「総合的な学習の時間」の「目標」に示す「探究活動」の実施を踏まえていない。そして、単なる調べ学習の展開を、総合的な学習の時間の展開としている。その為、協同的な学びの機会が少なく、個人での学習が中心となっている。児童の主体的・能動的な学習活動を展開するだけでなく、探究の過程が2回以上展開できるように計画する必要がある。

今後は、学習指導要領が期待する「総合的な学習の時間」にかかる学力の育成が実現するため、今年度見直した年間指導計画をさらに改善し、学習の充実を図っていく。

2 授業改善の方策

(1) 年間指導計画改訂の枠組みを、以下のように改める

- 1 単元名
- 2 年間指導計画における本単元の位置づけ
- 3 単元の概要
 - ① 単元の目標（※ 一文で記述する）
 - ② 単元で育てようとする資質と能力及び態度
 - 【学習方法に関すること】
 - 【自分自身に関すること】
 - 【他者や社会とのかかわりに関すること】
 - ③ 単元で学ぶ内容
- 4 単元の評価規準
- 5 単元構想と学習の流れ

(2) 以下の年間指導計画編成の方針を共通理解して、学習材の開発と指導計画の改訂作業を行う

- ① 各学年2単元で構成する
- ② 単元30～40時間の探究活動に耐える学習材の開発と組立
- ③ 「探究の過程」を踏まえた単元計画の作成（2連続以上の探究活動の展開）
 - ・探究活動とは、一連の「学習課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の学習活動の連続と発展。子供の主体的・能動的な学習活動の展開であること。
 - ・小単元の組立、次の小単元への連続・発展のレベルで探究活動を構想する。
 - ・探究の過程を実現するには、単元は一定以上の時数が必要である。
- ④ 人や地域にかかわる体験活動を通して学習課題を把握・設定したり、情報を収集したりする活動を重視する。
- ⑤ 情報の整理・分析の過程を中心にして、思考ツールの活用を図り、思考・判断・表現する力の伸長を図る。
- ⑥ 自分たちの学習活動に、探究の過程でかかわってくださった地域の方々などに中間報告会などで問い返し、評価を受ける場を、積極的に設定するようにする。
- ⑦ 単元の終末では、個々の子供が、単元で学習した内容や思考・表現の過程を振り返り、再吟味してまとめ・表現する活動を重視し、思考・判断・表現する力の伸張をはかる。
- ⑧ 理科や社会科の発展学習や、理科や社会科に関連した体験学習に止まる活動や、行事の練習・準備の活動は、総合的な学習ではないことを確認する。
- ⑨ 移動教室の事前学習で、インターネット情報などを写してまとめる活動は、総合的な学習ではないことを確認する。